



DO NOT COPY

DO NOT COPY

2022年度  
業務紹介  
国土交通省航空局  
航空機検査職

<国家・一般職>  
機械・電気・電子  
情報・物理  
化学

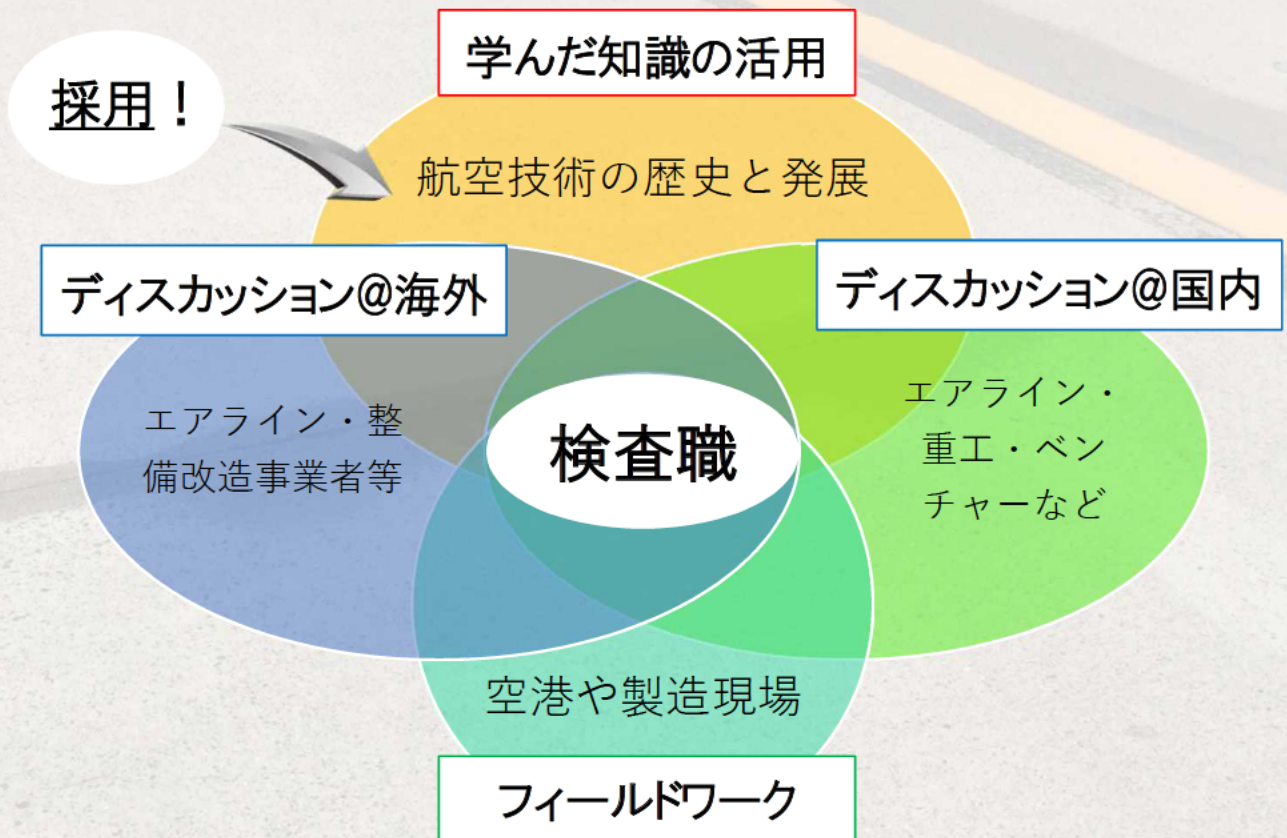


## 技術系・航空機検査職とは

幅広い職務をとおして多くの技能を身につける。

相手を尊重し、時間を意識して職務を遂行するのに必要な心構え・コミュニケーション力・技術力・知識を職員自らが積み上げていく。

人との対話・モノとの対話をつうじて、航空の安全、航空の発展、航空利用者の利便性を高める。そして、日本の公共の福祉を増進するために力をつくす。





## 技術系・航空機検査職のキャリアアップ



### 職員が能力や経験等を発揮できるキャリア計画



選択した業務分野で技術的なリーダーシップを  
発揮しながら後進を育成し、**50代前半**には、  
チームの業務を管理する能力を高める。



専門性を磨き上げるために、キャリアに有益な技術資格  
へ挑戦、専門知識の理解と世界のコミュニティへの参加  
へ挑戦。**40代前半**までに、キャリアの軸を自ら太くする。

人事院による行政研修と配属先の職場による教育・訓練をつうじて  
基礎的な知識の理解をこころみる。東京・愛知・大阪の官署を短い  
周期で異動して、幅広い職務の理解をうながす。



**30才**までに、挑戦したい業務分野(キャリアの軸)を決める。



## 「先輩教えてください。どんな仕事ですか？」

山崎 彰一 本省耐空性維持係長(2021/9/1～現職)

2005年 一般(Ⅱ種)機械で採用。東京航空局保安部航空機検査官室に配属。4人乗りの小型機飛行機からヘリコプターまで、多くの機体の検査を経験。

その後、羽田空港にある検査官室で、エアラインが運航する大型機飛行機の検査をチームで実施。

MRJプログラム始動後、愛知県にある航空機技術審査室で大型飛行機とヘリコプターの設計審査チームに配属。専門は、ヒューマンファクター。

フライトテストエンジニアとしてパイロットと共にヒューマンエラーを起こしにくいコックピットのデザインを審査。米国で研修を受け、日本の航空自衛隊などで専門知識を磨く。



## 経験を積んでこそ見えてくる世界

### いま求められていること

現在、霞ヶ関でカーボンニュートラルに向けた取り組みを担当しています。カーボンニュートラルに向けて、新素材や電動ハイブリッド技術等を取り入れた燃費の改善、ジェット燃料に代えて代替燃料や水素等で飛ぶ航空機の実現が急務です。技術開発促進は経済産業省の得意分野と思う人がおられますが、国土交通省が担っている航空機の安全規則や環境規制など、日本の航空産業に大きな影響があるので、両省が協力して進めています。自分の仕事は安全性のみと殻にこもらず、視野を大きく広げていくことが求められています。

### 将来の目標

職務も大切ですが、いわゆるワークライフバランスの「ライフ」の部分を大切にしていきたいと考えています。私には娘と息子がいますが、娘の誕生後は1か月間、息子の誕生後は6か月間の育休を取得し、家事・育児に専念しました。出産前は出張を同僚に代わってもらい、テレワークのみとする計らいもいただいています。経験者として、まずはそれらが当たり前の職場にしていきたいことが目標です。「ワーク」の部分は、その時々々に政府に求められるニーズに応じていくことに貢献できるよう、常に柔軟でありたいと思っています。



## 「先輩教えてください。どんな仕事ですか？」

木村 裕一（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構 福島RTF 制度企画担当課長（2021/4/1～派遣中）

2005年 一般（Ⅱ種）機械で採用。東京航空局保安部航空機検査官室に配属。初勤務地は、調布空港。ジェネラルアビエーション（略して、ジェネアビ）の世界を知る。その後、九段下の本局でウルトラライトプレーンの審査に従事。

2008年 MRJプログラムの始動を受けて航空機技術審査室に異動。ヘリコプターを主としたプロジェクトを担当し、コンセプト、設計、製造、完成検査から運航までの、長い航空機のライフサイクルを審査。途中、羽田空港・仙台空港の勤務を経て、試験飛行が活発になった時期に、再び愛知県。

2015年 米国航空局（FAA）の専門家と供に訓練を受けて、システムの機能確認を目的とした試験飛行機に搭乗。

2021年 福島でドローンやエアモビリティに挑戦する企業のニーズに応じた支援策を考える技術企画を担当。



異動にネガティブな側面はある **けれども、さまざまな職場に顕在した課題・潜在しているリスクに挑み、考えた経験。これこそ自分の糧となる。**

### いま求められていること

現在の勤め先である福島ロボットテストフィールドは、東日本大震災及び原子力災害で失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト「福島イノベーション・コースト構想」のロボット開発拠点です。

私はドローンやエアモビリティの技術担当者として、開発企業へ制度面での支援を行っています。その他に、ドローンやエアモビリティビジネスの起業家、アーリーアダプターに法律や航空局が定める制度に対する理解を深めてもらうミッションがあります。つまり、「近くで気軽に相談できる局の人」。これが私の真の役目だと思っています。

### 将来の目標

ドローンやエアモビリティといった新しい移動手段は、これまでとコンセプトや技術が異なっており、航空の世界が変革しています。しかし、どんなに新しいモノが世界に登場しても、「人が安全に利用」でき、「人が安心を感じること」ができないと、社会が新しいモノやサービスを受け入れることができないと考えます。多様性のある移動手段に成りうる航空が、より社会に受け入れられて、日本の社会が一層豊かになるように、「安全」という重要な要素に対して自分が（少しでも）貢献できればと考えています。



## 「先輩教えてください。どんな仕事ですか？」

難波 謙太 東京局・航空機検査官(2022/4/1現在)

2012年 一般(Ⅱ種)機械で採用。(10年間で異動による引っ越しを2回経験)東京航空局保安部航空機検査官室に配属。1年後、小型飛行機やヘリコプターを使う航空運送・使用事業者の整備体制や安全管理体制の実行状況を監査。

本省航空機安全課で、航空機のエンジンや装備品などの仕様に対する審査を補助、操縦者訓練装置(シミュレータ)検査にも立ち会う。

独法 航空大学校(仙台)に出向し、航大の運営を支えつつ、航空整備士の資格を取得。



航空用語が専門的すぎて右往左往した自分が、研修・OJT・航大への出向をとおして、航空機の整備や運航がわかってきた

### いま求められていること

現在、入局当初の配属部門である東京航空局で、航空機検査官の仕事についています。航大で整備士ライセンスを取得する前は、先輩の航空機検査官に付き添って、検査業務を理解することに必死でした。ようやく小型飛行機のシステムやメカニズムを理解し、どのように飛行して機体を維持しているのか分かるようになったので、職場から資格認定を受けて検査業務を行っています。いまは、法令に基づき認定を受けた事業者へ監査を行うために、経験を積んで、新しい領域に活動の幅を広げる必要があります。後輩へ自分の経験を引き継ぐことも、私の大切な役割と思います。

### 将来の目標

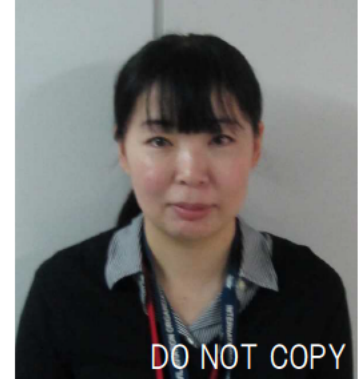
航空機検査官職は技官として、航空機に対する幅広い専門知識が求められます。複数の職務をとおして、航空業界を支えている仕事(ほんの一部)に関わった経験は、私にとってかけがえのないものとなり、全ての業務が空の安全につながっていることを学びました。航空の安全を支えている仕事を俯瞰的に眺めることができたことは、数ある行政職の中でも“航空機検査職”だけじゃないかと思います。興味をもった学生の皆さんにも挑戦してほしいです。将来も、行く先で学びや新たな経験がまっていると思います。将来は、航空運航分野の技術系ジェネラリストになりたいと考えています。



## 「先輩教えてください。どんな仕事ですか？」

松尾 晴菜 本省訓練装置基準係長(2022/4/1現在)

2010年 一般(Ⅱ種)機械で採用。東京航空局保安部航空機検査官室に配属。その後、霞が関本省の航空機技術基準企画室、大阪八尾空港の航空機検査官、本省航空事業安全監査室、東京羽田空港の環境・地域振興課へ転々と異動。現在は本省乗員政策室に配属。



### お悩み中のみなさんに

幅広い専門的な知識だけでなく、それを相手に伝えるスキルが求められるので大変ですが、やりがいを感じながら業務を行っています。航空局の技術系職員でよかったと思っています。他の職業では得られないたくさんの経験、飛行機の利用者では知ることができないフィールドがあるので、私自身の知識の幅や視野が広がりました。

社会に出て約10年になりますが、公務をつうじて学ぶことはたくさんあります。もっと成長して、頼られる先輩になれるようにがんばります。航空機検査職という仕事に興味をもってくれた皆さんと供に働ける日を楽しみにお待ちしております。

## 色々なキャリアパスで成長する航空機検査職



川内 佑馬 東京航空局成田空港事務所地域調整課  
(2022/4/1現在)

2016年 一般(Ⅱ種)機械で採用。大阪航空局保安部航空機検査官室に配属。2018年1月 愛知県の航空機技術審査室に異動。航空機システムの審査を実施。

### 将来の目標

入局して7年目になります。初任地の大阪航空局では航空法令や通達を学び、愛知では国産航空機の設計を審査する業務に携わりました。航空機検査職は、学ばべき知識の幅がとても広く、ところによっては深い世界があることを感じながら公務にあたっています。最近では、エアモビリティやドローン、サブオービタルなど新たな移動の形が世界に現れつつあり、安全や安心をどのように定めていくかに課題があります。ステイクホルダーと信頼関係を築き、協力しながら日本の空を便利で、安全で安心して利用できる空間にしていきたいと考えています。

## 採用情報

業務説明会や官庁訪問等に関する最新の情報は、東京航空局や大阪航空局ホームページの採用関係に随時掲載するのでご覧ください。

国土交通省における女性職員の活躍と職員のワークライフバランスの推進に関する取組などは、ホームページでご案内しています。

東京航空局ホームページ(採用情報)

<https://www.cab.mlit.go.jp/tcab/adoption/>



大阪航空局ホームページ(採用関係)

<https://www.cab.mlit.go.jp/wcab/news/recruit/>



令和2年12月25日に閣議決定した「第5次  
男女共同参画基本計画」の着実な実行

<https://www.gender.go.jp/index.html>



女性職員の活躍と職員のワークライフバランスの推進・障害者雇用の推進に関する取り組み(働き方、育児、介護など)

<https://www.mlit.go.jp/about/index.html>



## お問い合わせ先

パンフレットの内容や業務説明に関する質問は、お気軽にお問い合わせください。

東京航空局安全統括室 次席航空機検査官 白石 電話:03-5275-9325

大阪航空局安全統括室 次席航空機検査官 守岡 電話:06-6949-6235

著作物を無断で複製、転載すると著作権に違反します。